

第56回 武雄市短期経済観測調査（たけお短観）の結果について

下記のとおり「第56回武雄市短期経済観測調査（たけお短観）」を実施し、結果をとりまとめましたので、お知らせします。

結果のポイント

現況のDI値は、前回大幅に上昇した農業の値が落ち着き、前回回復した観光業も今回は悪化しておりインバウンド増加の半面、人手不足による従業員の確保を模索されている。製造業と建設業については前回より回復したが現況の数値はまだ低い。
今後4月から6月にかけての見通しについては、全体的に悪化を懸念する声が多いが、観光業と飲食業はビジネスや旅行で人の流動が予想され、回復の兆しがある。

【武雄市短期経済観測調査（たけお短観）結果】

令和7年3月調査

	前回調査		今回調査			
	A 現況 (R6.12)	見通し (R7.1-3)	調査数	B 現況 (R7. 3)	(B-A)	見通し (R7. 4-6)
					前回現況 との対比	
総 合	-26	-19	81	-28	-2	-14
農 業	67	0	6	0	-67	0
建設業	-56	-44	10	-30	26	-60
製造業	-57	-14	8	-13	45	-38
卸売・小売業	-42	-16	20	-45	-3	-5
観光業	0	-10	11	-36	-36	18
飲食業	-17	-17	7	0	17	29
サービス業	-31	-25	19	-32	-1	-26

- 調査目的 本市経済の景況感をよりの確に把握するため
- 調査対象 武雄市内事業所 100箇所（業種別内訳は上表参照）
- 調査方法 オンラインアンケート、FAX、電話等による調査
- 調査内容 (1)現在の景況感：良い、普通、悪いのいずれかを回答
(2)3ヵ月後の見通し：良くなる、変わらない、悪くなるのいずれかを回答
- 集計方法 (1)現在の景況感(2)3ヵ月後の見通しについて、それぞれ回答数の構成比を求めた上で「良い(良くなる)」の構成比から「悪い(悪くなる)」の構成比を引いて「現況DI」、「見通しDI」として指標化しました。
例えば、現在の景況感の「良い」が10%、「普通」が40%、「悪い」が50%の場合は、-40となります。
「DI」(Diffusion Index、デフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標の事で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。